

## 健全な企業運営 — 取締役会議長メッセージ —

実効性評価に基づき  
PDCAを着実に推進し  
取締役会のさらなる  
機能向上を図ることで、  
企業価値の向上に  
努めてまいります。



取締役会議長  
青柳 俊彦

### 新たな経営理念の実現に向けて

当社の取締役会は、業務に精通した社内取締役と幅広い経験・知見を持つ社外取締役から構成しており、多様な意見をもとに毎回議論しています。取締役会の過半数は独立社外取締役が構成しており、独立した立場で実効性の高い監視・監督を行っております。

2025年3月に経営理念を一新するとともに、「JR九州グループ中期経営計画2025-2027」を発表しましたが、策定にあたり、取締役会で1年間をかけて、計10回の協議を重ねました。各取締役の多様な意見をもとに検討を深度化した結果、当社グループの新たな方向性を示すことができたと考えております。今後、新たな経営理念を体現し、持続的な成長を果たせるよう、取締役会として経営の監督に努めてまいります。

### コーポレートガバナンスの基本的な考え方と リスクマネジメントに向けた対応

当社グループでは、経営の透明性・公正性を確保しつつ、迅速・果敢な意思決定及び適切な情報開示を行い、持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上に向け、コーポレートガバナンスのさらなる充実にも取り組んでまいります。取締役会では、毎年取締役会実効性評価を行うとともに、実効性評価で認識された課題や次年度の取り組みについて、取締役会にて協議の時間を設け議論しました。詳細は本統合報告書でも紹介していますので、ご参照ください。

**P.60** 取締役会の実効性

JR九州高速船株式会社で発生した安全管理体制に重大な疑義を生じさせる事案について取締役会で複数回議論し、最終的に事業撤退を決断しました。グループガバナンスのさらなる強化策を定め、実施状況を確認するとともに、社外取

締役を中心としたグループガバナンスや安全性向上に向けた意見交換会を実施し、経営に反映することとしました。

**P.62** グループガバナンス強化

今回の事象を真摯に反省し、当社グループのガバナンス、リスクマネジメントの対応レベルを一段と引き上げるべく、取締役会議長として主導してまいります。

### 取締役会議長としての決意・今後の展望

取締役会に求められている役割を発揮するために重要なことは多様な背景を持つ取締役の経験、知見を十分に活かし、自由闊達な議論を行うことだと考えています。取締役会議長として、意識的に議論を促すとともに、短期的な視点だけでなく、中長期的な視点での議論も深めながら取締役会の活性化に努めています。

社外取締役の皆さまからは議論をする中で、将来の目標や常に考えるべきことに関する視点・姿勢について多くの示唆をいただいております。それらも意識し、議事を進行しています。一方で、地域との結びつきが強く、公共性の高い鉄道事業を担う当社の事業性から、社外取締役と社内取締役双方の意見を十分交わし、方向づけることが重要と考えており、議長として議論の活性化に努めています。

今後も議長として、取締役会の活性化を牽引するとともに、実効性評価にて認識された課題に対する取り組みについて、PDCAサイクルを繰り返すことで企業価値向上に努めてまいります。